

ニセコ町役場新庁舎のご案内



環境モデル都市 SDGs 未来都市 ニセコ町

新庁舎建設の目的

2011年3月11日に発生した東日本大震災を契機にニセコ町役場新庁舎の建設の議論が始まりました。旧庁舎は建設から50年の年月が経過し老朽化も著しく、有事の際の防災活動拠点としての機能を果たせないことが懸念されており、防災拠点となり得る新庁舎の早急な整備が必要でした。一方、市街地においては、隣接する公民館の廃止や道道ニセコ停車場線の歩道拡幅整備が進行しており、役場庁舎周辺の有効的な土地利用を含めた市街地環境の整備も必要でした。

新庁舎においては防災拠点整備という側面だけではなく、来庁者の利便性向上、職場環境の改善、周辺敷地の一体的利用など多様な庁舎機能を十分な住民合意の中から検討し、ニセコ町の未来を支える“まちづくり拠点”創造の方向性を示す検討を行いました。

当初旧庁舎の耐震改修及び一部防災センターの増築を検討していましたが、2016年の熊本地震後有利な財源が新設され、庁舎と防災センターを一体として整備する方針となりました。2017年度に基本設計、2018年度実施設計を行いました。2019年6月24日から工事を開始し、2021年3月9日に竣工を迎えました。

新庁舎建設の経過

2012年 : ニセコ町役場庁舎再整備基本構想
2013年 : 役場庁舎基本構想再検討
2015年 : ニセコ町防災センター建設工事基本設計
2017年 : ニセコ町役場新庁舎建設工事基本設計
2018年 : ニセコ町役場新庁舎建設工事实施設計
2019年6月 : ニセコ町役場新庁舎建設工事着工
2021年3月 : ニセコ町役場新庁舎建設工事竣工
2021年5月 : ニセコ町役場新庁舎建設工事供用開始

新庁舎建設の概要

建設位置 : 字富士見 55 番地
敷地面積 : 2,480.07 m²
建築面積 : 1,697.70 m²
延床面積 : 3,374.22 m²
規模構造 : 地下1階地上3階
鉄筋コンクリート造
駐車台数 : 9 台

新庁舎建設の事業費

基本設計	株式会社アトリエブंक	10,476,000 円
実施設計	株式会社アトリエブंक	57,240,000 円
工事監理	株式会社アトリエブंक	24,860,000 円
建築主体工事	泰進・浦野・石塚特定建設工事共同企業体	1,328,800,000 円
機械設備工事	藤井・浦野・本間特定建設工事共同企業体	264,000,000 円
電気設備工事	樋口・本間特定建設工事共同企業体	269,500,000 円
その他工事費等	ロールスクリーン、移転支援業務、夜間機械警備設置等	67,526,000 円
備品購入費等	事務用備品、地元家具作家備品、絵画	95,645,000 円
	事業費等 合計	2,118,047,000 円
有利な財源	市町村役場緊急保全、緊急防災・減災、国土強靱化特別等	1,659,000,000 円
環境省補助金等	二酸化炭素排出抑制対策	174,276,000 円
	有利な財源・補助等 合計	1,833,276,000 円



ニセコアンヌプリ、旧庁舎、新庁舎、羊蹄山を見渡すパノラマ



町民窓口がまとまった執務室（1階）



まちの情報が集まる展示コーナー（1階）



多目的に利用できる平戸土間の町民ホール（3階）



4カ所ある個室会議室（1階）

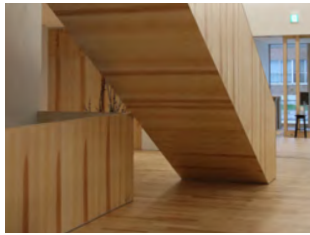


可動間仕切りを設置した災害対策室（2階）



バリアフリー対応の多目的トイレ（各階）

新庁舎のフロアマップ



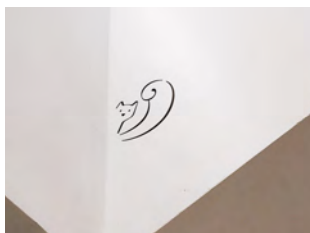
町木シラカバを使った内装



町内作家やアーティストの作品



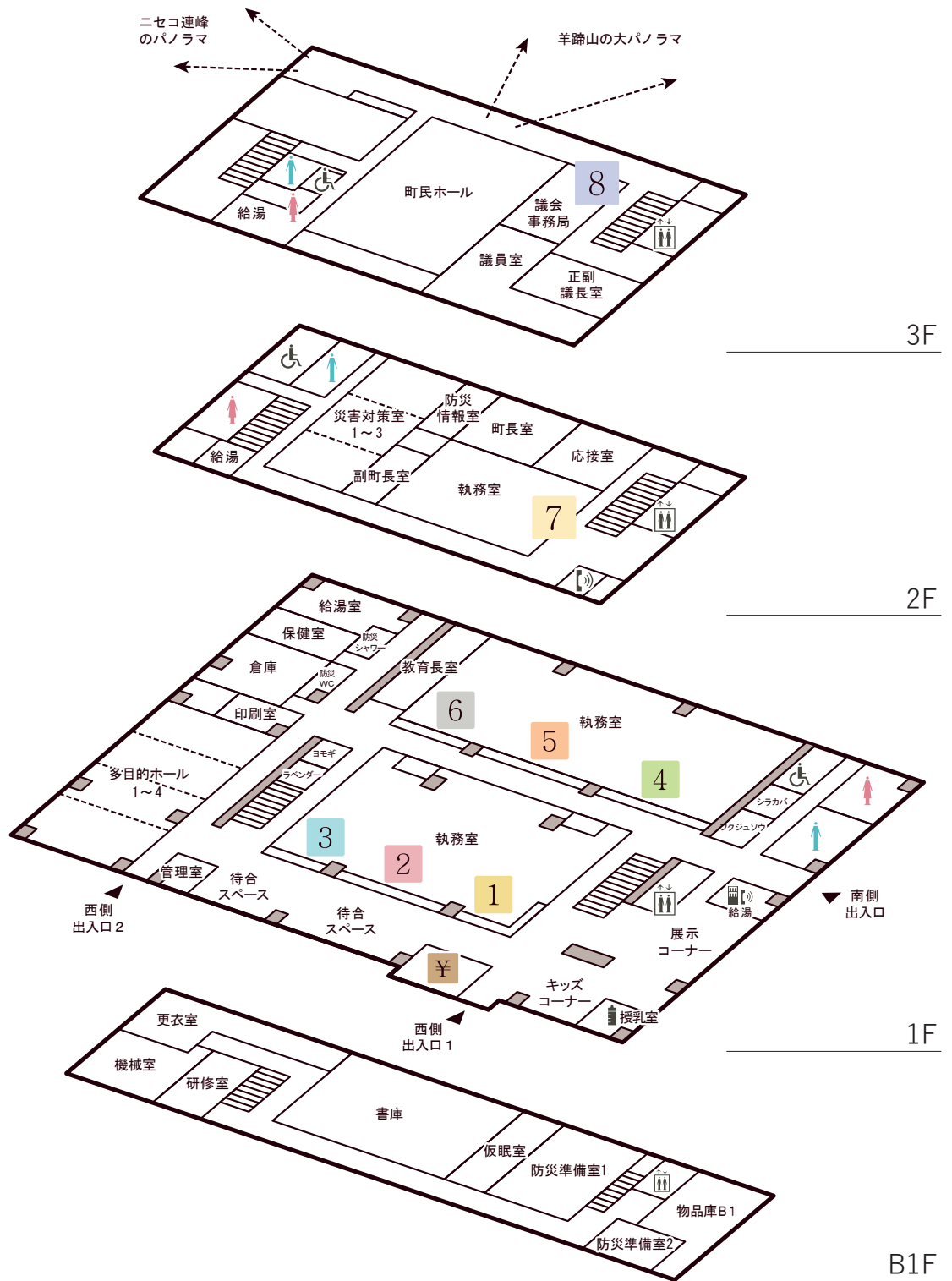
明快な各課のサイン



各所に隠れている動物や昆虫



幼児センターの幼児が採取した土で作ったレンガ



1F

- 1 町民生活課
- 2 保健福祉課、地域包括支援センター、税務課
- 3 都市建設課、上下水道課
- 4 農政課、農業委員会、国営農地再編推進室
- 5 商工観光課、ようてい地域消費生活相談窓口、企画環境課
- 6 教育長室、教育委員会・学校教育課、こども未来課
- ¥ 出納室

- ・キッズコーナー、展示コーナー
- ・個別の会議室（ラベンダー、ヨモギ、フクジュソウ、シラカバ）
- ・多目的ホールは間仕切りで4部屋に分割可能

2F

町長室、副町長室、応接室

- 7 総務課、選挙管理委員会
- ・災害時のほか普段は会議室としても活用する災害対策室

3F

町民ホール、正副議長室

- 8 議会事務局、監査委員
- ・窓側は羊蹄山とニセコ連峰のパノラマを見渡せるカウンター席（フリースペース）

新庁舎建設の6つの基本コンセプト

1. 防災の拠点をつくる

災害用の資材を収納する物品庫や自家発電機のほか、熱と電気をつくるLPGコージェネレーションを導入。災害時にはコージェネからの排熱を回収し建物内部に供給します。



災害時の資材を収納する物品庫（地下1階）

2. 環境に配慮した施設をつくる

高性能断熱材の導入、シラカバ材とアルゴンガス入トリプルガラス高性能窓の導入により、躯体外皮性能 $0.18\text{W}/\text{m}^2\cdot\text{K}$ を実現、全国の庁舎でもトップレベルの省エネ性能です。



熱を逃さない超高断熱の窓（2階）

3. 子どもの利用の視点に立った施設をつくる

キッズコーナーや授乳室を設けたほか、すべてのトイレにはベビーシートを設置。窓口カウンターには子ども用のいすを用意しています。



ライオンズクラブから寄贈頂いたキッズコーナー（1階）

4. 町民に開かれた拠点をつくる

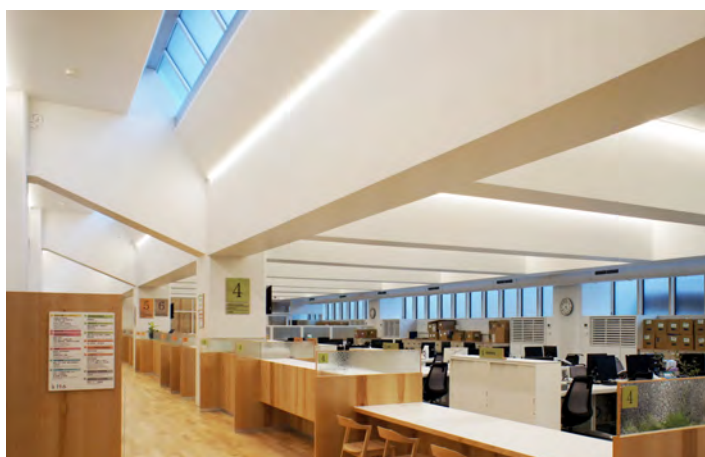
展示コーナーや待合スペースには、町内木工作家さんによる椅子やテーブルを配置。3階のフリースペースは誰でも気軽に利用しやすいように配慮しました。



誰でも気軽に利用できるフリースペース（3階）

5. 自然との調和を大切に施設をつくる

網戸付き窓を各フロア随所に配置し、自然通風しやすいレイアウトにしたほか、高い位置や両側からの自然採光を採る設計となっています。



トップライトやハイサイドライトからの自然光（1階）

6. ニセコらしい整備手法でつくる

まちづくり町民講座やワークショップで、町民のみなさんと話し合いを重ねました。幼児センターの子どもたちに採取してもらった土を混ぜて作ったレンガを使用。



昨年4月に子供たちが敷地内の土を採取（南側出入口）

新庁舎の構造計画

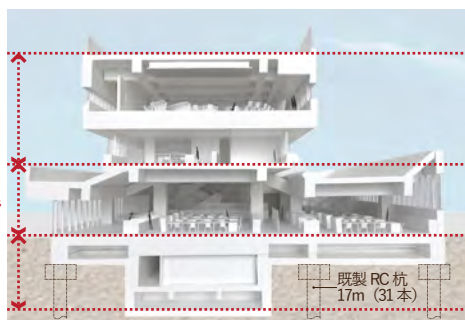
1. 日本有数の多雪地域にて行政機能を守る RC 造庁舎

垂直積雪深が230cmになる日本有数の多雪地域であるニセコ町にて、防災活動拠点としての高い耐震性能を有する建物を実現するためRC造としました。構造体の耐震性には「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」による分類のⅠ類(重要度係数1.5)を採用し大地震後における十分な機能確保しています。

コア部分に耐震壁を集約し
セットバックさせた2,3階

コアから外周部側に耐震壁を配置し
開放的な執務空間を実現させた1階

積層部分の力をスムーズに地盤に
伝達できるコンパクトな地下階



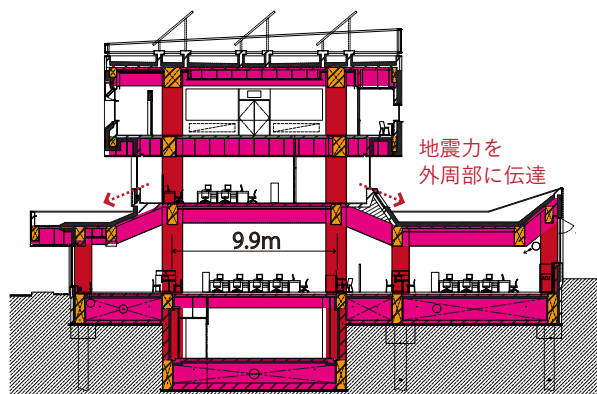
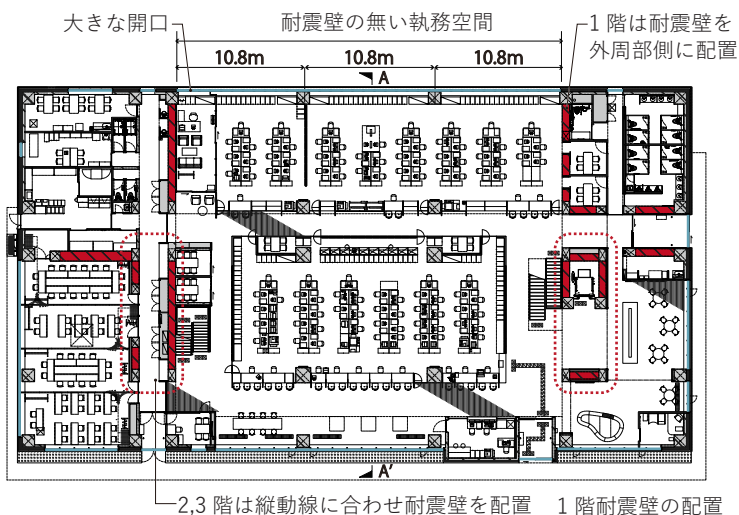
断面模型写真



西側外観

2. 大スパンで開放的な耐震壁付ラーメン構造

新庁舎は、大きな階高をもつ1階の執務空間を有し、外周には眺望や採光を確保する大きな開口が設けられています。また、開放的な執務空間と将来のフレキシビリティを実現するため柱が比較的大きなスパン(10.8m×9.9m)で配置されています。縦動線(階段、エレベータ)およびバックヤード部分などに耐震壁を集約的に配置した耐震壁付ラーメン構造とし、建物に作用する地震力を柱梁以外の耐震壁にも負担させています。2階床レベルの梁と1階外周部とを繋ぎ、3～2階に作用する地震力を1階外周部にも伝達させる構造形式とすることで1回執務空間の柱梁で負担する地震力が軽減され、断面がより小さい、開放的な空間が得られています。



A-A' 断面 軸組ダイアグラム

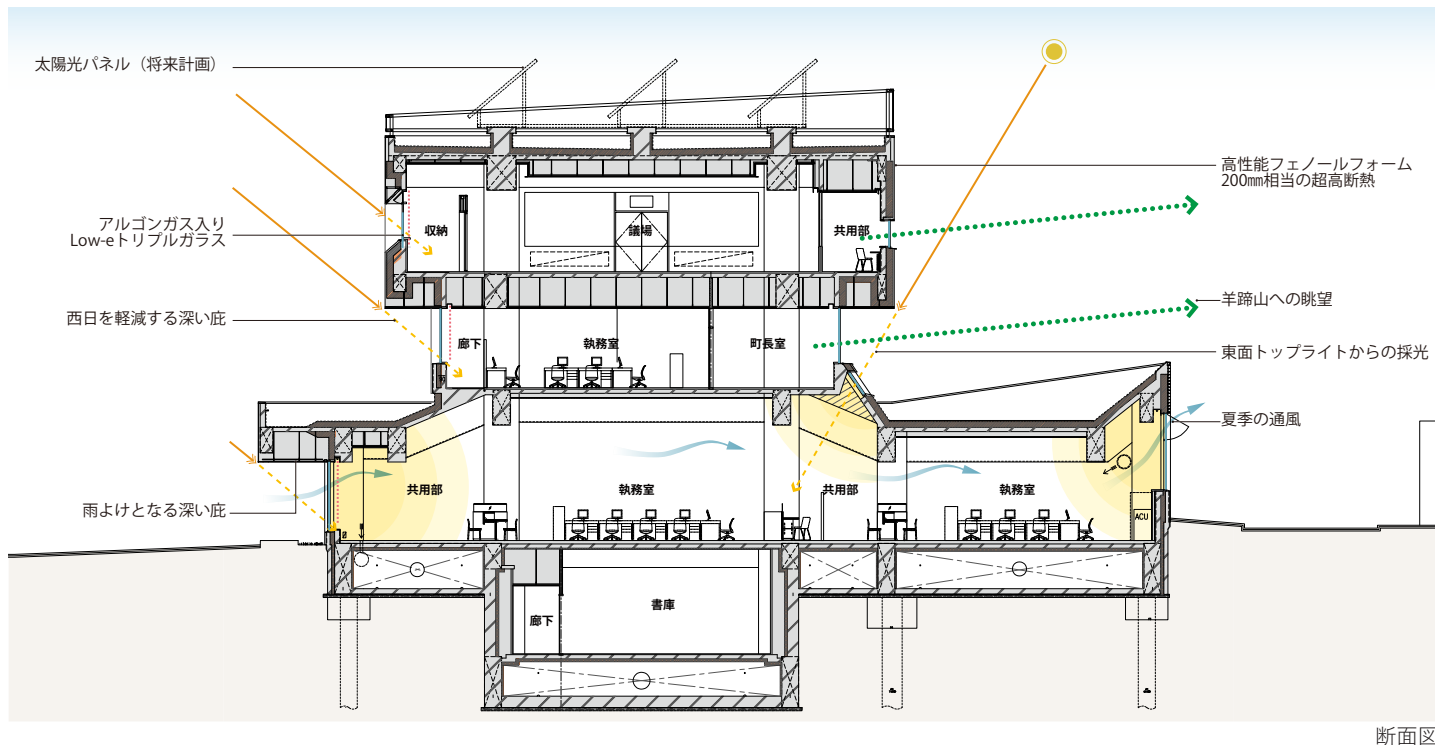


南側外観

新庁舎の環境計画

1. 木製サッシ+トリプルガラスによる最高水準の断熱性能

環境モデル都市としてかねてから持続可能なまちづくりに取り組んできたニセコ町は、2018年に国から『SDGs 未来都市』に選定されました。2050年に2015年比86%のCO2排出の削減を目指す目標を掲げており、新庁舎はその象徴的な役割を果たすことが求められています。新庁舎整備においては、外皮性能向上の徹底を図りました。外壁に付く窓を全て木製サッシとし、アルゴンガス入りLow-Eトリプルガラスを全面的に採用しています。また、壁面・屋根面には高性能フェノールフォーム200mm相当の高い断熱性能を確保し冷暖房負荷削減を徹底しています。



2. ハイサイドライトを利用した均質な光環境

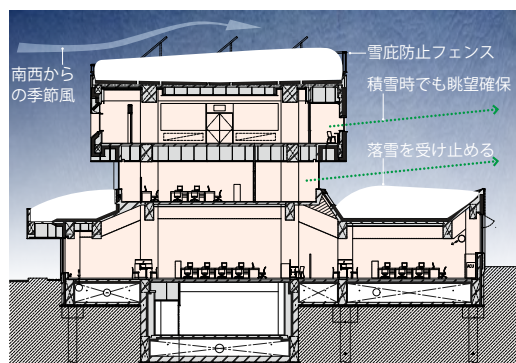
積雪の影響を考慮し、2階中央部分の床レベルを周囲の屋根レベルより高く設定する特徴的な断面型式としています。冬季においても2階の窓面への積雪の影響を最小減と留めることが可能になり、1階執務室においては開放的な高い天井が確保できます。奥行の深い1階執務室の中央部には、ハイサイドライトからの自然光を導入することで中央部分に暗がりが生じない均質な光環境を確保しています。

3. ニセコの大自然を感じるパノラマウインドウ

ニセコ町への来賓を迎える2階の応接室、町民に開かれた3階共用部からは積雪の影響を受けることなく一年中ニセコの雄大な自然を感じることが出来ます。3階共用部には全長約40mにわたるパノラマウインドウを設けています。

4. 雪庇を受け止め、歩行者を守る雪国の形

多雪地域ニセコでは冬季間の雪庇による被害が深刻な問題になります。ニセコ町中心部では珍しい三階建てになる新庁舎においては雪庇対策をしっかりと行っています。1階の屋根が大きく跳ねだし、2、3階が小さいボリュームとなる特徴的な断面形状を四周に採用することで、どの方向に雪庇ができて3階からの雪庇を1階屋根で受け止め歩行者に影響を与えないよう配慮しました。また、冬季の風向測定、数度にわたる風洞実験、雪庇防止フェンスの採用、パラペット形状の工夫等により最善の対策を施しています。





ニセコ町役場

〒048-1595 北海道虻田郡ニセコ町字富士見 55 番地
TEL : 0136-44-2121 (代表) FAX : 0136-44-3500
HP : <https://www.town.niseko.lg.jp/>